



問 自販機再設置はライフスタイル転換の後退
基幹避難所の機能強化、熱中症対策のためだ

無党派 相沢 一正 議員

議員 自販機再設置は何箇所、再設置率は何%で、再設置の理由は何ですか。また、ライフスタイルの転換という前村政の目標は後退したのではないかと思うがどうか。

副村長 11箇所11台。震災後の撤去は32台だったので、再設置率は34.4%。今回の再設置は基幹避難所の機能強化とスポーツ施設での熱中症対策が目的。撤去は不便さを受け入れるライフスタイルの転換による説明してきたが、スポーツ施設においてはそれより優先すべきものがあるとの判断から、今回方針を変えた。環境活動への取り組みなど、引き続きライフスタイルの転換のための施策を進めていく。

議員 節電とライフスタイルの転換を目標に自販機の撤去がなされたと

いう経緯がある。村議会では度々質問が出たが、「政策として推進する」、村民の不満については「丁寧に啓発する」と執行部は自販機撤去を維持してきた。私はこの執行部の毅然とした姿勢に共感を抱いてきた。なのでこの転換には違和感がある、と述べておく。

公共施設に自動販売機を設置します

村では、基幹避難所とスポーツ施設に、防災機能強化等の一環として飲み物の自動販売機を設置することとなりました。これらの自動販売機は、災害時に村の判断によって、自販機内の商品が無償提供されるものです。また、併せて設置業者と災害時の支援協定を締結し、避難所の飲料水の確保に努めています。

設置施設▽8月設置：総合体育館、総合福祉センター「絆」、各コミュニティセンター▽9月設置（予定）：スイミングプラザ、村テニスコート、阿瀬ヶ浦公園

企画経営課企画政策担当（内線1334）、防災原子力安全課消防防災、原子力安全担当（内線1518）

広報とうかい8月10日号より

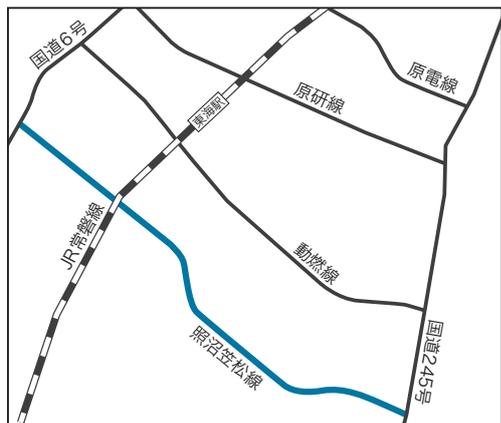


問 避難道路となる照沼笠松線の早期整備を
引き続き国・県へ要望していく

新国会 飛田 静幸 議員

議員 原子力災害に備えた東海村広域避難計画は、高速道路のインターチェンジを利用した移動計画になっており、そこに行くための避難道路が重要である。村内には国道6号と国道245号の間に原電線、動燃線など縦横に避難道路が整備されている。しかし、照沼の国道245号から船場の国道6号までの照沼笠松線は、計画されてから40数年いまだに1mも進んでいない。照沼・川根・須和間・船場地区の住民の避難道路となる予定の道路が未着工であり、早急に整備が必要と思うが見解を伺う。

建設農政部長 照沼笠松線は避難道路だけでなく、ひたちなか地区開発の進展に伴い、都市や産業、物流の拠点を結ぶ重要な路線と考えており、引き続き強く国・県へ整備を要



整備を要望している照沼笠松線

望していく。

議員 国道245号は東側が海で迂回する道路は無い。五反田線延伸の整備が必要となるが見解を伺う。

建設農政部長 細浦地区において、貴重な自然環境の保全が重要と捉え、整備計画を取りやめた。